

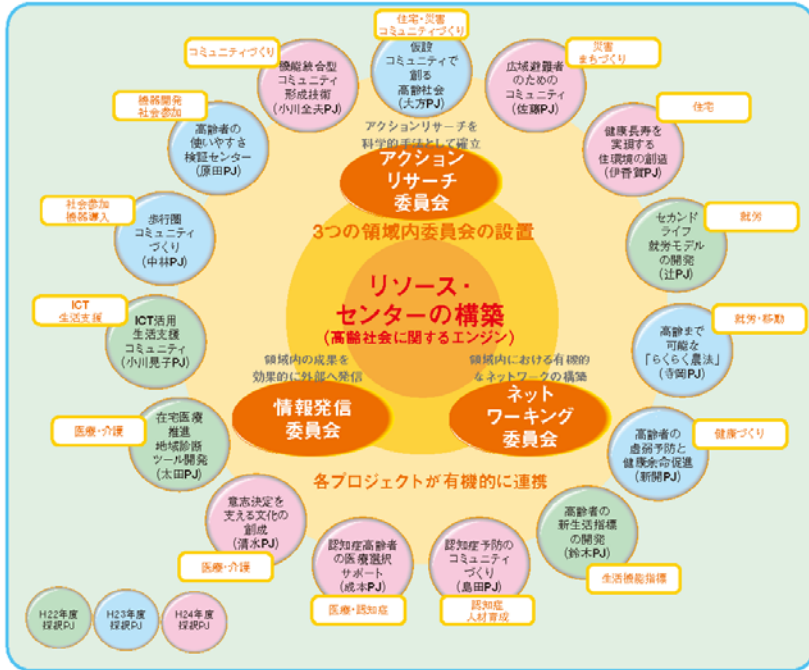
【背景】

- ・2025年には65歳以上の人口が総人口の3割以上となり、2010年と比べて全国で700万人以上増加すると見込まれている
- ・現状を正確に把握し、問題点を洗い出し、対策の検討に向けた研究開発を実施することが急務

【領域のアプローチ】

- ・人文・社会科学系分野と自然科学系分野とのバランスが取れた、複数分野に渡る広い知見に基づく取組み
- ・研究者と現場の関与者との連携
- ・現実の社会における問題の解決に資する具体的な技術や手法等の実証を伴った研究開発

【領域全体像】



領域目標

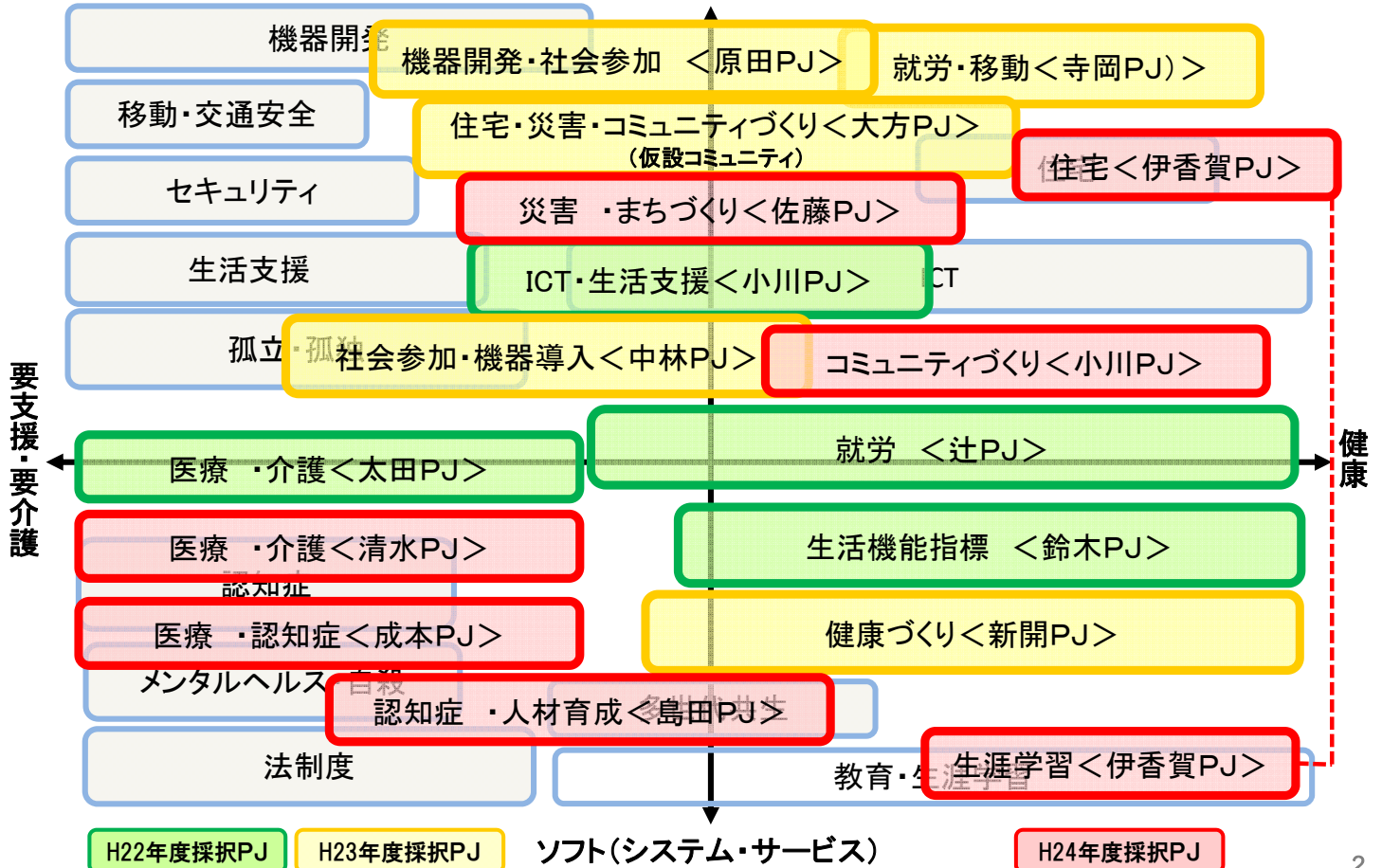
- (A) 地域やコミュニティの現場の現状と問題を科学的根拠に基づき分析・把握・予測、実践的研究により、問題解決に資する新しい成果を創出
- (B) 高齢社会に関わる研究開発の新しい手法、科学的評価のための指標等を、学際的・職際知見・手法に基づき体系化、提示
- (C) 研究開発拠点の構築、関与者間のネットワーク形成、継続的な取り組みや他地域への展開の原動力創出。多世代の理解促進

目指す社会像

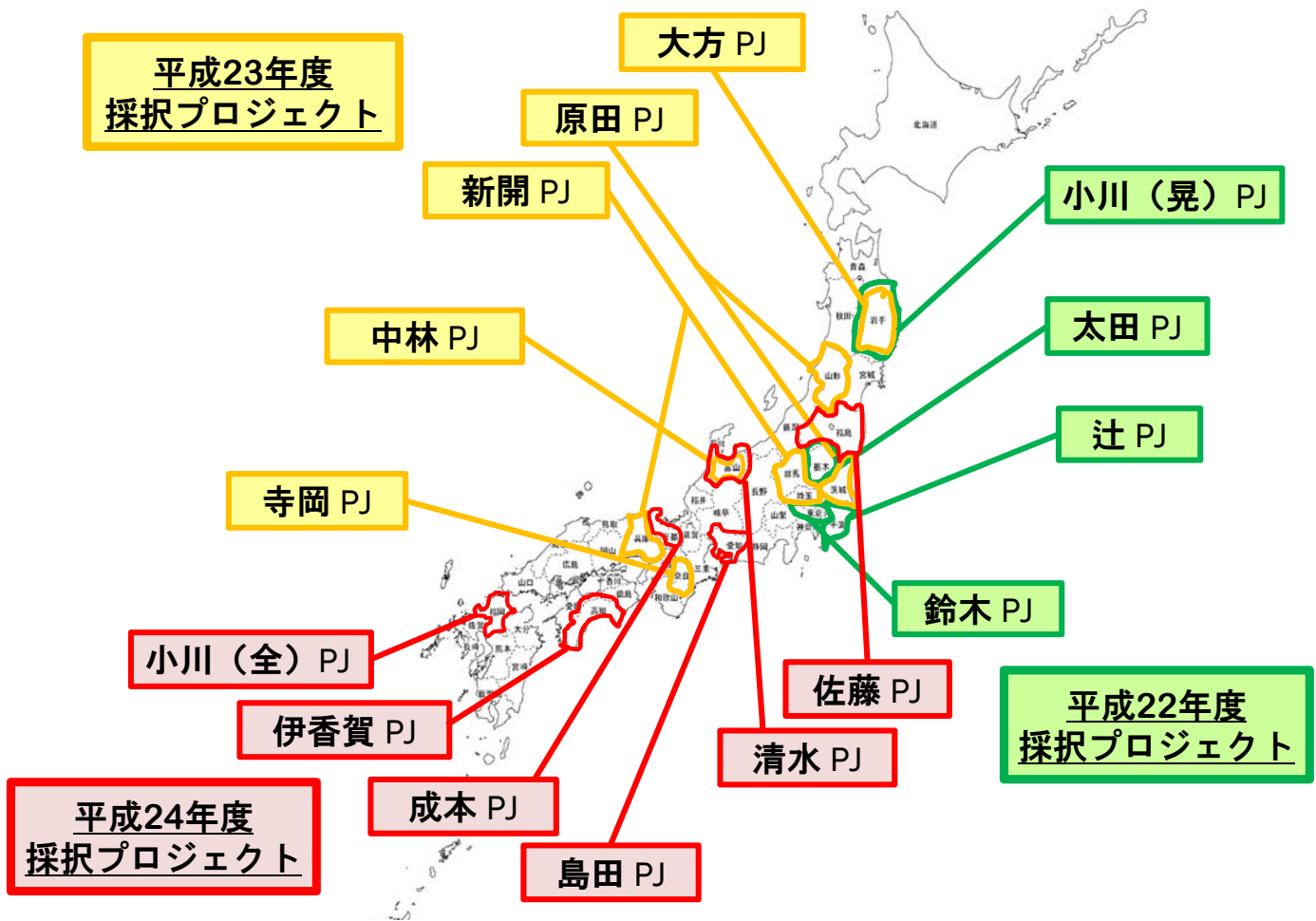
- ① 自立期間(健康寿命)を延長し、アクティブシニアが活躍できる場を創る
- ② 住み慣れたところで日常生活の継続を支える生活環境を整備する

採択プロジェクト 分野概略図

ハード(テクノロジー)



採択プロジェクト 実施コミュニティー一覧



3

領域マネジメントとしての取り組み ①

2014年のサイトビジット

1月	清水PJ	砺波市
2月	成本PJ	京都市
	新開PJ	鳩山町
	伊香賀PJ	梶原町
4月	原田PJ	つくば市
5月	佐藤PJ	二本松市
	小川(全)PJ	福岡市
	寺岡PJ	下市町
6月	中林PJ	富山市
8月	成本PJ	宮津市
	新開PJ	養父市
	大方PJ	大槌町
10月	島田PJ	名古屋市

- 総括、アドバイザーが参加
- 研究開発実施地域を訪問
- 意見交換、議論、講演
- 活動に参加、ともに体験
- 地域との交流・地域への刺激



4

領域マネジメントとしての取り組み ②

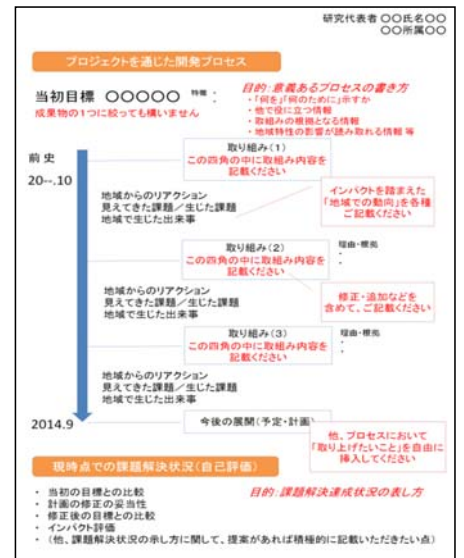
・成果取りまとめ集中会議(2014.7.15)

- ① コミュニティを対象とした社会技術成果
- ② コミュニティにおけるアクションリサーチをどうまとめるか、プロジェクトと議論。



・合宿グループワーク (2014.10.18)

「(コミュニティにおける)課題解決の程度」
や「(社会技術開発)プロセス」をどう示せば
よいか、プロジェクトと議論。



5



領域内委員会について

1. アクションリサーチ委員会

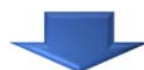
目的：領域総括・領域アドバイザーおよびプロジェクトメンバーが協働し、
コミュニティにおけるアクションリサーチを科学的な手法として確立する
進捗：文献整理、外部有識者による講演等を実施。
アクションリサーチの入門書の出版(東京大学出版会)に向けて作業中。
各種学会等にて発信を目指す(例：老年社会科学会)

2. 情報発信委員会

目的：領域内における情報共有のあり方、ならびに領域の成果を
より広く、より効果的に社会に展開していく情報発信のあり方を検討する
進捗：情報整理フォーマットを作成し、各プロジェクトに記入を依頼。
今後は発信情報を整理し、HP上にて効果的な形での公開を目指す。
「どのような情報を、どのような形式で、どういった手法を用いて、公開するか」

3. ネットワーキング委員会

目的：領域内のプロジェクト間の有機的なネットワーク、また領域と他の取り組みとの
ネットワークの構築を目指す。



コミュニティの高齢化課題解決リソースセンター構築を目指す

6

アクションリサーチ委員会

目的：領域総括・領域アドバイザーおよびプロジェクトメンバーが協働し、コミュニティにおけるアクションリサーチを科学的な手法として確立する

■ 委員会活動にて得られた知見をプロジェクトの取り組みに活かす

- フォーカスグループインタビューの実施
- ステークホルダー分析の応用の検討

→新たな手法開発も試みる

■ アクションリサーチの入門書の出版(執筆中)

『超高齢社会におけるコミュニティの創造
—アクションリサーチへの招待—(仮)』

序章 本書の狙い

第1章 アクションリサーチとは何か

第2章 課題の発見と解決に向けての準備

第3章 課題解決に向けた地域での実践

第4章 アクションリサーチにおける成果の評価および波及のための要件

第5章 アクションリサーチ論文の書き方(論文チェックリスト)

第6章 終章



フォーカスグループインタビュー

7

情報発信委員会

目的：領域内における情報共有のあり方、ならびに領域の成果をより広く、より効果的に社会に展開していく情報発信のあり方を検討する

アクション全体のプロセス【段階0～段階Ⅳ】

活動項目

質問項目

活動を実施した時期とそのプロセス・結果

時期については半年単位(【H25上】、【H25下】)で記入、
時期に引き続き、質問に対応して活動内容や事実を簡潔に記載
※PJ特有の内容で可

活動経験から言える【一般化のためのヒント】

◎ 参考にすべきこと・成功の秘訣：悩ましかったがこのように克服・解決した等
× 失敗談・留意すべきこと／改善要望：こんな失敗をしたので留意すべき、こんなサポートがあるとより効率的・効果的だった等の改善要望等

0【地域背景】 企画策定に至る経緯と地域資源・・・企画策定に至るまでの対象地域との歴史的背景(長期のもの)、対象地域に特徴的な資源について

A 地域背景

① 企画策定に至る経緯 企画策定に至るまでのこれまでの経緯・対象地域との関係

② 地域資源 対象地域に特徴的な資源としてどのようなものが存在したか、またそれをどう活かしたか

I【創成段階】 構想・企画立案～コア体制づくり・・・プロジェクトの開始に係る企画策定をどのように行か、コアの体制づくりをどうすればいいのか

B 企画策定

① 課題設定および解決策構想の背景 社会実験を行う課題(高齢社会に関連したもの)、および解決策の構想をどのような背景から設定したか

--

※本委員会で検討中の「一般化のための情報整理フォーマット」(一部) 8

『コミュニティの高齢化課題解決リソースセンター』の概要・イメージ



TOPICS



中林PJ 歩行補助車
「2014年度グッドデザイン賞受賞」



寺岡PJ 下市町
「第2回プラチナ大賞 優秀賞受賞」



原田PJ みんなラボ
IAUDアワード2014
「ソーシャルデザイン部門
金賞受賞」



小川(晃)PJ 社会の教科書
「新編新しい社会5⑤(東京書籍)」より

奈良県栴原の柿畑

トルコのオリーブ畑



急傾斜の山間地という共通点



中林PJ

2014/10/17

OECD・富山市「都市の国際ラウンドテーブル
高齢社会におけるレジリエントな都市」

→ 中林先生だけでなく、長寿会のメンバーも発言

2015/2/8

「国際フォーラム

環境未来都市と持続可能な都市づくり@マレーシア」

